

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における
指導・支援に関する有識者会議（2021年8月26日）

関連する取り組みの紹介と今後の可能性

市川伸一 ichikawa@p.u-tokyo.ac.jp

（東京大学名誉教授／帝京大学中高 校長補佐）

議論の方向性として

- 1) 教科学習や探究活動を話題の中心にしつつ、より広い活動分野を視野に入れて考える。
- 2) 優れた才能をもつ児童生徒だけに限定せず、個に応じた学習支援の一環としてとらえる。
- 3) 学校教員の負担増とならないよう、学校を取り巻く環境の整備・充実・活用を図る。

1. 地域教育の活性化

授業外学習ポイント制度の提案

(内閣府人間力戦略研究会報告書、2003.4.10)

発端は人間力育成（経済財政諮問会議）

社会人と学ぶ場への参加促進

自治体、NPO、大学、地域施設、企業等の教育プログラムをとりまとめ、広報する
インセンティブとして、参加実績の共通ポイント化

その後、大きくはないが、さまざまな形で実現化

NPOが主導するもの：地域の学び推進機構（2004～）

学校、教育センター等が主導するもの

学びのポイントラリー



地域で行う超・選択学習

- 自治体、市民団体、NPO、民間企業、大学、地域の施設、…等が教育プログラムを登録（既存のプログラムでもかなりある）
- HP、教育委員会、学校等を通じて、児童・生徒や保護者に広く紹介

プログラムは4つのジャンル

- 教科学習の補充・発展／文化・スポーツ／市民生活／職業理解
- 40ポイント取得ごとに機構が認定証を発行

実施地域（2018年3月現在）

東京都：文京区、江東区、台東区、小金井市、立川市
京都府：相楽東部広域連合 奈良県：奈良市
大阪府：貝塚市 岡山県：井原市、美咲町、矢掛町

「学びのポイントラリー」15年間の成果と課題

成果の指標

登録プログラム数（機構のHPにすべて掲載）

参加者数（機構が把握できるのは、認定証発行数）

ポイントラリー作文（参加体験記）

成果をあげた地域の特徴

活動の意義を感じ、地域をまとめる担当者の存在

学校（PTA）または教育委員会の理解・支援

広報、認定証申請手続きの支援、朝礼での表彰など
実施メンバーの異動が少なく、プログラムが安定

現れた問題、今後の課題

参加者側の課題：高校生はまず来ない → 募集を断念

プログラムの課題：4つのジャンルが地域により偏り

運営上の課題：ボランティアメンバーの固定化、高齢化

2. 学習成果を発表する場の設定・拡大

伝統的な大会

マスコミで紹介されるものも
ロボット・コンテスト、数学オリンピック、…

学びんピック（文部科学省、2003～2008）

全国的・国際的な大会・コンテスト等の認定・広報
財団委託で、審査委員会が60程度の事業を認定
作文、論文、数学・科学、技術・情報、文学、美術、…

学会における高校生の発表セッション

とくに自然科学系の学会
専門家からの指導、アドバイスも

さあ、今すぐ、チャレンジ!



学びんピック

<http://manabinpick.mext.go.jp/>

メールマガジンに登録しよう!

学びんピックとは...

文部科学省が認定する全国の小中高生が参加する文化系の各種大会のことです。
みなさんもチャレンジしてみませんか?

平成19年度「学びんピック」認定大会一覧

小学生対象

中学生対象

高校生対象

「学びんピック」大会認定のための基準（一部抜粋）

大会の趣旨

- ・ 学校の教科等における文化的な諸活動により培った様々な力を競い高め合うことなどを通じ、児童生徒の学習意欲の向上に資すること。

大会の主催者

- ・ 大会の主催者は、原則として、国・地方公共団体、学校及び学校の連合体、公益法人及びこれに準ずる団体、報道機関であること。
- ・ 大会主催者が、当該大会あるいは類似大会・事業に十分な実績を有するなど当該大会の適切な運営が見込まれること。

内容の公正性

- ・ 特定の営利企業、商品などの宣伝や非難になるおそれのあるところはないこと
- ・ 特定の個人、団体などの権利や利益を侵害するおそれのあるところはないこと

大会の規模

- ・ 大会の規模が全国的なもの（一部の地域に偏ったものでないもの）、あるいは
- 9 国際大会の予選**を兼ねるものであること。

3. 学校における探究活動等の促進・評価

文部科学省の施策

SSH (2002～), SGH (2014～2020)

大学や地域との連携も奨励、指定校ではかなりの成果
課題：多額の費用、教師の負担、継続・拡大の難しさ

公益法人による研究助成、研究支援

研究者の派遣、優れた実践の表彰なども

助成額としては、SSH, SGH ほど高くない、期間も短い
教師負担は大きくないが、効果・継続・拡大には課題

大阪府教委の Global Leaders High School 評価 (2012～)

府立10進学校に対して、評価審議会が総合評価を公表
有力大学合格者数だけでなく独自の評価項目

探究活動、海外研修、特別活動、部活動等も含む

→ 私立高校も含めた新たな学校評価規準になりうるか



教員へのヒヤリング（大阪府立天王寺高校、2018）

◆学習指導要領改訂に伴う方向性(教師への質問)

- ・直接の議論はこれからだが、すでに方向は先取りして実施している。
- ・アクティブ・ラーニング、評価の改善、国際的な交流、卒業生の講話など。
- ・理数科の時代からの課題研究、探究学習。今後のカリキュラムや大学入試改革にもマッチ。
- ・つねに先進的な試みを取り入れることをやってきているので、改革にアレルギーがない。



グループワークを取り入れた数学の授業



生徒へのヒヤリング

◆1 天高についてのイメージの変化（生徒への質問）

- ・勉強づけ、スパルタという不安 → 部活・行事が盛んで、忙しいが充実した日々。友人関係もよい。

◆2 天高での生活のよい面と要望

- ・朝から晩まで、自分がどれだけがんばれるか試せる生活で充実感がある。要望は、部活後にも行ける自習室。
- ・行事の中身が濃く充実。先生の学習サポートがていねい。「桃陰セミナー」(卒業生による学習指導)をもっと活用したい。
- ・授業アンケートなどで生徒の意見を聞いてくれる。

◆3 現在・未来の天高の教育への期待

- ・自由なコミュニケーションができる関係があるのはよいが、人前で堂々と主張するようなことは苦手。そういう立場に立たせて、慣れさせるような教育・環境を。
- ・安全や勉学を重視して部活や行事を軽減するようにはならないでほしい。ただし、部活しながらでも、探究活動や研究発表などにも参加できる機会がもてるとよい。
- ・ネイティブの人と話せるような機会の増加。受験英語だけでなく、日常的なコミュニケーション力も。
- ・先生方はやさしいが、生徒がそれに甘えてはいけない。

今回の天王寺高校取材を通して：
伝統を継承しつつ進化する姿

伝統的な天高精神

文武両道、質実剛健

最近の天高のスローガン

秀才を誇らず野人を誇る

名門を言わず実力を問う

明朗にして適度に楽しむことを忘れない

社会に生き、社会を拓くリーダーの育成

教育改革の先導的実践

まとめに代えて

1. 地域教育の活性化

特色あるプログラムを、学校枠を越えて提供可能
学校・教委への要望：広報への協力、参加の推奨、教室・
校庭の提供、生徒による相互報告、教員からの助言
プログラムへの要望：高度で挑戦的なものもぜひ

2. 学習成果を発表する場の設定・拡大

大学、学会、企業などの社会貢献、後継者育成として
活動実績を大学進学や就職の際に評価できるしくみに
大会やコンテスト等の周知
文科省への要望：「学びんピック」の復活（委託でも）

3. 学校における探究活動等の促進・評価

学校評価・教員評価の規準の拡大
学校をつなぐ役割を果たす学校・教員も推奨していく

参考 Web ページ

授業外学習ポイント制度

人間力戦略研究会報告書

<https://www5.cao.go.jp/keizai1/2004/ningenryoku/0410houkoku.pdf>

学びのポイントラリー

地域の学び推進機構 HP

<http://www.chiiki-manabi.org>

学びんピック

Wikipedia：学びんピック

<https://ja.wikipedia.org/wiki/学びんピック>

“Global Leaders High School”（大阪府）

大阪府 HP：グローバルリーダーズハイスクールについて

https://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/tokusyoku/gh_saratoku.html